

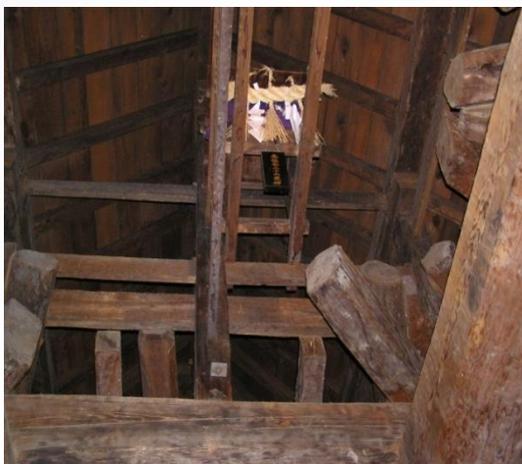
二十六夜神

天守閣六階、小屋裏に二十六夜神が祀られている。元治元年（一六一八）正月二十六夜の月夜に、天主番藩士川井八郎三郎の夢枕に美女姫が現れて、毎月二十六日夜、三石三斗三升三合の餅を搗ういて供え藩士に分ち与えれば、城は安泰であると告げられた。

翌朝、其の言を藩主戸田康永に伝えると「それは神のお告げであろう」と翌二月二十六日に、二十六夜神を天主六階の梁に祀りお祭りをした。明治二年、廃藩置県により藩は解体され、城郭は売却取り壊しとなったが、天主は市川量造らの努力によって取り壊しは免れた。

小林有也先生（旧制松本中学校長）が天守閣保存会を起こし明治三十四年から十二年がかりで明治の大改修が行われ倒壊の危機を救ったことは周知のことである。

昭和十一年に国宝指定（国宝保存法により）を受けるも損傷が激しくなって、昭和二十五年から五か年がかりで解体復元工事が行われた。城の改修が始まると、改修に



協力する人達によって二十六夜会が結成された。天守の改修が終わり、大町市の川井家に祀られていた二十六夜神が再度天守閣に鎮座されることになった。

その後、松本城保存会と二十六夜会の両派が統合され文化遺産の擁護と、二十六夜神の祭典を主体とした松本古城会が結成された。ボランティアとして運営されている松本古城会のスケジュール表を見せて戴くと大変ハードな日程であり、其れを消化実行されている。四月、春の夜桜会に始まり、城の床磨き、茶会、いけばな展、サイトウキネン合同演奏会、秋には月見の宴、文化の日の松本お城祭り、その前日行われる二十六夜神の餅つき

会等々数知れない。関係業者は勿論のこと、知って於かなければならぬのは、それを支援するボランティアの人々の協力と弛まぬ努力の有る事を忘れては為らない。世界に誇れる文化遺産を望み実現させる為には、私達市民も一人一人が、意識を持って関わっていかねばならないと深く感じた。